

# 和田毅さん

ドクターKの「僕のルール」  
世界の子どもにもワクワクチンを



野球界での華々しい活躍と同時に、  
2005年から始められた社会貢献活動でも注目されている、  
福岡ソフトバンクホークスの和田投手に  
春期キャンプ地の宮崎でお会いし、  
野球のこと、社会貢献活動に対する思いをお伺いしました。



## Tsuyoshi Wada

### PROFILE

【わだ つよし】東京六大学野球で早稲田のエースとして大活躍、2002年には江川卓氏の持っていた東京六大学野球連盟奪三振記録443を更新、通算476奪三振まで記録を大幅に伸ばした。神宮の「ドクターK」と称され、プロ球団注目の左腕投手として各球団が激しい争奪戦を展開した。現福岡ソフトバンクホークスに入団、2003年新人離れした投球術で1年目から先発ローテーションの一角を担い、優勝に貢献。14勝5敗の成績で、新人王を満票で獲得。阪神との日本シリーズでは、新人では史上初めて第7戦に先発完投し、日本一の胴上げ投手となった。2004年のアテネオリンピックでは日本代表として出場し、銅メダル獲得に貢献した。野球界での活躍と同時に、2005年から「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」を通じて、世界の子どもにワクチンを寄付している。試合で1球投じること、自分で決めたルールにしたがってワクチンの寄付をするという「僕のルール」が新しい寄付スタイルとして注目を浴びている。JCV代表の細川佳代子氏は和田さんの活動に対して「寄付の革命を起こした」と高く評価している。

はじめまして。練習中の貴重な時間を頂戴ありがとうございます。

本日は和田さんの野球界での活躍と、注目されている社会貢献活動などについてお伺いしようと考えております。よろしくお願いたします。

——野球を始められたきっかけについて教えてください。

父が社会人野球の選手だったので、小さい頃からよくキャッチボールの相手をしてくれたり野球観戦に連れて行ってくれました。自然に野球に親しんでいった感じで、それが野球との縁でしょうか。

——やりたかったポジションはどこでしたか。

自分は左利きなのでポジションは投手以外では外野手か一塁手に限定されてくるんですが、やはりピッチャーをやりたかったですね。でも、小学生の頃は背が低かったですよ。それで最初の頃はクラブチームで外野手をやっていました。センターで九番打者でしたか(笑) 小学校の高学年の頃から投手をやるようになった。

——お父様が野球選手だったのですか。野球との縁は深いですね。当時、憧れの野球選手はいましたか。

愛知県で生まれて小学生低学年の頃までそこにいましたので、地元ドラゴンズファンで育ちました。そんな関係で、ドラゴンズの当時の左腕エース今中慎二選手に憧れました。

球が速くて良いカーブを投げるし、スマートで格好良かったですから…。初めてお会いした時は大変緊張したことを思い出します。

——高校は島根県の浜田高校ですね、高校時代あるいは、青春時代の思い出はありますか。

なんといっても憧れの甲子園に出場できたことです。デカくて凄い球場に感激し、憧れのマウンドに初めて立った時は足が震えてしまいました。高二、高三の夏と連続して甲子園に出場し、高三の夏にベスト8まで進出できたことが嬉しい思い出であり、誇りですね。——高校球児の夢を実現できて良かったですね。もし、野球選手になっていなかったら、今頃何をされていると思いますか？

## 父とのキャッチボール、そして憧れの甲子園





© SBH

## 人一倍のトレーニングと 創意工夫が三振奪取を生み出す

して、特に投手としては大きくはない方でしょう。ファンの皆様に豪腕というイメージもないと思いますし自分でもそう思います。

——それにもかかわらず、なぜ沢山の三振奪取が生まれるのでしょうか。その秘訣、コツを教えてください。

生きた伸びのあるボールを投げる為のトレーニング、特にランニングは相当やっている自負がありますよ。大学に入ってから投球フォームも変えましたし、ボールに力の伝わり易い投げ方を考え、コーチと共に、とにかく真剣に取り組んできました。それが伸びのあるホップするボールに繋がってきたと思います。並のこをやっていては抜け出せないと考えていますから…。

——考え、工夫したトレーニングを相当積み重ねてきたのですね。大学時代の群を抜くペースでの三振奪取と三振奪取記録は大変有名ですが。

ありがとうございます。私が作った東京六大学野球連盟記録の四七六個は実質的には三年間で作ったものなんです。私が本格的に神宮のマウンドに立ち始めたのは二年生の時ですから。

不滅の記録とかマスコミ等で色々云っていただきますが、私自身としては絶対に破られない記録だと思っています。(笑)

——確かに大変な記録だと思いますし、それを実質三年間で達成されたとは凄い一言です。

プロの世界に入られてからも三振奪取率は高い方だと思いますが、三振奪取を意識して投げているのですか。

必要な場面や、ゲームや自分のムードを変えたいとき等は勿論三振を狙いますが、通常は狙っていません。少ない投球数で打者を打ち取ることの方が、肘などの負担も軽く済み投球のリズムやチームのリズムが良くなることが多いと考えていますから…。

プロでは少し違いますが、大学時代は三振が欲しいと思った時はかなりの割合で取れましたね。

——プロで立派に通用したから満票で新人王を獲得された訳ですが、入団当時、プロとアマの違いを強く感じられた点がありますか？

球が速いとか、体格やパワーが違うということには、正直あまり驚きはな

大学で教職課程を選択してしましたので、高校の教師をしながら野球の指導者になっていたかもわかりません。授業も一応まじめに受けていて、教育実習を残すのみでしたから…。

——和田さんの教師姿、きつと似合いますよ。

野球選手として、特に投手としては普通の体格で、豪腕の部類ではないと思います。

確かにその通りです。子どもの頃は小さい方でしたし、今でも野球選手と

## お金を貰ってやるのがプロ野球 ファンに対する思いと責任の重さ

かったですね。アマチュア時代にも色々な選手を見たりする機会が多くありましたから…。

むしろ、自覚というかプロとしての責任を強く感じました。お金を貰って野球をやる以上は、プレーに対する責任があるし、ファンの思いも受け止めなければならぬということです。私の場合、プロ野球への入団で野球に対する考え方がアマチュア時代とは全然違っていました。

——そうですか、プロ意識にスイッチが切り替わったのですか。

これまで野球をやってきて良かったことは何ですか。

野球を通じて色々な人と出会い、交流できることが楽しみであり、自分の財産です。

今もこうして遠方からきていただいで私の話を聞いて貰えるわけですから…。

——ありがとうございます。二〇二二年位は、肘の故障などに苦しまれているのではと感じます。

この春期キャンプにかける和田さんの思いをお聞かせください。

今年には故障をしないという強い決意でこの春期キャンプに臨んでいます。故障さえしなければそれなりの自信はありますから…。自主トレからネットスローとか相当やってきましたから、少し肘に張りが出た時期がありますが、今のところは心配ありません。トレーニングとランニングも相当やっていますから大丈夫ですよ。

——ファンの方達も今季の大活躍を期待していると思います。故障のないことを祈ります。

二〇〇五年から「世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）」を通じて世界の子どもにワクチンを寄付されておられますが、いつ頃から考えられたのですか？

プロになる、ならないは関係なく、大学に入学した頃から自分でお金を稼げるようになったら、何らかの形で社会貢献活動を始めたいと考えていました。社会の為に役立つことや世の中に笑顔を増やせる活動には関心がありました。



© 伊藤洋 (Hiroshi Ito)

## 学生時代から考えていた 社会貢献活動



© 伊藤洋 (Hiroshi Ito)

## 投球数が少なくて、 ワクチンが増える「僕のルール」

を寄付します。

但し、

勝利投手になった時は自分の投じる一球につき二〇本のワクチンを寄付  
完投勝利を達成した時は自分の投じる一球につき二〇本のワクチンを寄付  
完封勝利を達成した時は自分の投じる一球につき四〇本のワクチンを寄付  
というのが、私の作った「僕のルール」です。

——ありがとうございます。一般的にスポーツ界では、一勝したら…、ホームラン一本につき…、記録を更新したら…とか成果に直結する寄付が多いように感じています。

確かにそうですね。でもシンプルで分かり易くて、それはそれで良いと思います。

受け取られる方にとつての価値や喜びは同じですから。行動すること自体に意味があると考えています。

——和田さんの「僕のルール」が素晴らしいのは、「ご自身の勝利には関係なく、和田さんが投じる一球ごとに一〇本のワクチンを寄付することにあると思います。どついうお考えで、この「ル

——素晴らしいですね、若い頃からそんな考えをお持ちだったとは。

和田さんがいわゆる「僕のルール」に基づき寄付されたワクチンの本数が約二〇万本超という大変大きな数字になったとお聞きしました。

二〇万人の世界の子ども達にワクチンが提供できたんだなと感じています。数字については、自分が頑張ればもっと早く、もっと多く出来ただろうし、これからも多く出来ると感じますね。頑張りたいです。

——和田さんがワクチンを寄付される際の基準とされていて、まわりから注目されている「僕のルール」について説明していただけますか。

基本は、勝ち敗けに関係なく…：自分の投じる一球につき一〇本のワクチン

ール」にされたんですか。

勝ち負けには運もつきまとうもので、好投して負ける試合もあります。所属するチームの強弱にも左右されるものと考え、基本のところでは勝ち負けとは無関係のルールにしました。投球数は自分が頑張つて、登板機会が多くなれば自然に増えるものと考えています。

又、私は今後も長く野球を続けたいので、出来るだけ少ない投球数で体の負担を軽くしながら成績を上げて行きたいと考えています。成績の良い時は投球数が少なくて済む試合も多いのですが、投球数が少なくても勝利できた試合にはプラスαをつけることによつてワクチンの本数が増えるよう工夫したものです。自分の励みにもなります。

——思いやりが盛り込まれたルールなんです。和田さんのお人柄を強く感じます。

和田さんのお知り合いや友人の中でも、色々な社会貢献活動をされている方はいらつしゃいますか。そういう方達から刺激を受けられることはありますか。





選手仲間やチームメイトの中にも結構いますよ。車イスを寄付されている方が多いように思います。世の中に笑顔を増やす活動で素晴らしいことと感じていますので、自分も負けないように頑張りたいと思います。

——これまでの和田さんの人生で、強い影響を受けた方はどなたでしょうか。

浜田高校野球部時代の新田監督です。「浜田高校野球部の目標は甲子園だけど、浜田高校で野球をやる目的は人間形成である」と強く教えられました

た。今でも私の心に強く残っています。

の勝利を目標に私たち選手は練習し、頑張っているのですから……

——ご趣味は何ですか？

今はゴルフにハマってますね、色々な人とワイワイガヤガヤ言いながらプレー

——つづいて、社会貢献活動についてお願いします。

ーできるのが楽しみです。スコアは一〇〇を切るのが当面の目標ですけれど(笑)

現役の間は勿論のこと、今後も長く続けていきたいと思っています。また、現役を引退しても何らかの形で続けて行きたいと考えています。

——ゴルフの楽しみはスコアだけじゃないですから。もし、息子ができて野球選手になりたいと言ったらどうアドバイスされますか。

● 社会に役立つこと出来るだけ長く関わっていききたいですね。

多分止めはしないし、強制的にやらせることもないと思いますよ。都度、本人の意思を確認しながら見守りたいし、自分の経験したことや、わかっていることを教えてあげたいと思います。

これからの健康で、住みやすい社会づくりは、私たち住民の一人一人が社会に対し何ができるのかを考え、少しずつでもそれを実践し、積み上げていくことが大切になると感じています。

——優しくて、冷静な良いパパになれそうですね。期待しています。

和田さんのような有名な方が、ご自身の「僕のルール」を作られ、社会貢献活動をリードしていただいていることは後に続く方々への大きな励みと参考になると思います。

それでは最後に、和田さんの今後の抱負についてお聞かせください。まず野球に関してお願いします。

今後の野球界での益々の活躍とともに、世界の子ども達へのワクチンプレゼントが更に大きな本数となるよう期待しております。

私は常々、出来るだけ長く野球を続けたいと考えています。いつもその考えに基づいてトレーニングをし、体づくりもしています、とにかく野球を長く続けることですね。

(インタビュー)…協会職員 岡山三治

それと、今季の目標は、遠ざかっているリーグ優勝と日本一を是非実現したいです。

ファンの方も待ち望んでいますし、優勝の美酒を味わいたいです。チーム

優勝の美酒を味わいたいです。チーム